opusdei.org

神のために働くよう にとの呼びかけに応 える

教皇フランシスコは、9月20日(日)の正午、お告げの祈りの際に、マタイ福音書の「ぶどう園の労働者」のたとえについて話されました。(参照:VATICANNEWS)

2020/09/25

教皇フランシスコは、9月20日 (日)、バチカンで正午の祈りの集 いを持たれた。祈りの前に、教皇は この日の福音朗読箇所、「ぶどう園の労働者」のたとえ(マタイ 20.1-16)をめぐり説教を行われた。

ここでは、ぶどう園で一日働くように雇った労働者たちに対する、主人の対応が描かれる。イエスは、このたとえを通して、「召し出し」、そして「報酬」を与える主人=神の、驚くべき態度をわたしたちに示している、と教皇は話された。

このたとえはまず「召し出し」で始まる。ぶどう園の主人は、夜明け、九時、十二時、三時、五時と、一日に五回も出かけて、自分のところで働くようにと、労働者たちを呼びに行く。

主人が自分のブドウ園の働き手を探すために、何度も広場に足を運ぶ姿は感動的である、と教皇は語り、この主人によって表される神は、すべての人をいつでも呼んでおられ、今日も、ご自分の王国で働くように

と、すべての人を招いておられる、 と説かれた。

ご自身の愛の計画から誰もが除外されることがないように、自ら外に出かけ、人々を探し続ける、これが神のなさり方であり、わたしたちもそれを受け入れ、それに倣わなければならない、と教皇は話された。

わたしたちの共同体も、イエスの救いの言葉をすべての人にもたらすために、様々な形の「境界線」を越えて外に出るよう招かれている、ととべた教皇は、外に出れば事故の危険があることは確かだが、閉じこもり、病んだ教会より、福音のために外に出て、問題にぶつかる教会の方が良い、と語られた。

このたとえでぶどう園の主人として 描かれる神は、次に労働者たちに 「報酬」を支払う。主人は早朝に 雇った労働者たちに、一日につき 「一デナリオン」を約束し(マタイ 20,2)、その後に来た者たちには、「ふさわしい賃金を払ってやろう」 (同20,4)と言った。

そして、夕方になると、ぶどう園の 主人は、すべての労働者に同じ重払う 金、すなわちーデナリオンを支払う、監督に命じた。すると、主 くから働いていた者たちは、主 くから来た者たちも同様に扱うこは、 に不平を言った。しかし、主人にに 最後の者を含めて、すべてのだ、 記述した(参照:同20,8-15)。

イエスはこのたとえで、労働と適切な賃金についてではなく、神の御国と天の御父の慈愛について語っている、と教皇は説明。

実際、神は時間や結果ではなく、わたしたちが神のために奉仕したその 寛大さをご覧になる、と話された。 神の働きは、単なる正義を越えて、 恵みとして表される。すべては恵 み、わたしたちの救い、わたしたち の聖性も恵みである、と教皇は強調 された。

わたしたちが恵みを願うならば、神は、わたしたちがそれをいただくはふさわしくないほどの、よ教皇ないできる、と述べた教皇ない、自分をもって、自分になり、謙遜を基準に考える者は、後にいても後になり、謙遜をもゆだなる。後にいても先になる者は、後にいても先になる。第:同20,16)と話された。

ご自身のために働くようにとの神の 呼びかけを、わたしたちが毎日喜び と驚きをもって聞き、その唯一の報 酬として、神の愛とイエスとの友情 を受け取ることができるようにと、 教皇は聖母の助けを願われた。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/francisco-angelus-2020-9-20/(2025/12/10)